

「道北連携地域政策展開方針(H20～H24)」に係る 地域重点プロジェクトの推進状況の概要

地域のめざす姿

道北の広大な土地と恵まれた資源を生かした
産業が展開し、豊かで安心して暮らせる地域

「主な施策の展開方向」

- 地域特性を生かした産業振興
- 多様な魅力あふれる観光の振興
- 環境と調和した、安全・安心な地域づくり
- 離島地域の振興
- 暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成

地域重点プロジェクトの推進状況

■ きた☆北海道リージョナル・アクティベート・プロジェクト

【推進エリア：道北連携地域】

【主な取組実績】							
○「きた☆北海道シンクタンク」コアチーム及びタスクフォースの設置及び開催（H21～H24） ○旭川大学との包括連携協定の締結及び包括連携協定に基づく取組の実施（H21～H23） ○広域的な課題の実態調査、産学官の連携や民間団体等との意見交換によるニーズの把握（H21～H23） ○「きた☆北海道シンクタンク」コアチームにおける政策展開方針等の進捗管理（H21～H23）							
【主な成果】							
○コアチーム及びタスクフォースの設置・開催により、産学官が連携して道北連携地域の課題等を協議・検討し取組を推進する体制が整備 ○広域的な課題についての実態調査や産学官の意見交換により、問題点の洗い出し・検討 ○道北連携地域政策展開方針において産学官の幅広い視点での進捗管理がなされたとともに、タスクフォースにおいて各プロジェクト事業が着実に推進。							
【今後の取組方向（主なもの）（H25～）							
○「きた☆北海道シンクタンク」において、これまでのコアチーム及びタスクフォースの取組の成果を検証し、幅広い視点を活かした施策の推進 ※本プロジェクト策定後の環境の変化などにより、当初のプロジェクトの目的をより発展させた取組が行われていることから、本プロジェクトを発展的に解消し、引き続き、幅広い視点で、地域の活性化に向けた取組を図っていく。							
【地域で考える目標の状況】							
項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
シンクタンク機能の整備	—	0	0	0	0	1	1
産学官連携によるテーマごとの推進チーム編成件数	—	0	2	3	3	3	4
調査・企画立案・実施される施策(事業)数	—	0	0	0	0	0	4

■道北観光の魅力発見プロジェクト

【推進エリア：道北連携地域】

【主な取組実績】

- 広域観光ルートの開発、体験・滞在型観光地づくり
 - ・「きた北海道観光戦略会議」で取りまとめた「きた北海道観光の振興について」に基づき、道北の観光と地場産品フェスティバルに観光情報コーナーを設置した道北の観光PRを実施（H21～H24）や、管内の観光PRツールを作成し、道の駅、空港などで情報発信を実施（H21～H24）
 - ・体験観光の取組として、「るもい体験観光商品開発・発信事業」を実施し、体験観光メニューの開発と調査、発信用のデータ作成（H22）を行ったとともに、「るもい観光産業コーディネーター育成事業」において、被災地の子どもたちを受け入れる業務等を通じ、地域で継続的に活躍できるコーディネーターを育成（H24）。
 - ・道内外の個人観光客をターゲットとした周遊型広域イベントを管内観光関係事業者との連携で実施「宗谷◇周遊QRラリー」（参加者数 H24：約1,000人）
- 離島観光の推進
 - ・デスティネーションキャンペーンなどによる離島の魅力発信や、札幌駅前地下歩行空間を活用して「オロロン観光キャンペーン事業」を実施し、天売島・焼尻島の魅力を幅広くPR（H23）
- 「食」の魅力を生かす連携促進等
 - ・道北地域（上川・留萌・宗谷）における「食」と「観光」の魅力を発信するため、各地域、団体が一体となってフェアを札幌市内で開催し、道北地域への観光客の誘客を促進（H21～H23）
- 情報の発信
 - ・道北地域の新たな観光資源の発掘とモニターツアーによる検証を行い、広域観光PRマップを作成し道外エージェント等に情報発信（H22、H24）

【主な成果】

- 広域観光ルートの開発、体験・滞在型観光地づくり、離島観光の推進・周遊型広域イベントの実施により、地域のホスピタリティ意識や観光客の満足度が向上
- 各種取組の実施により、リピーターの確保につながるなど多様化する観光客のニーズに応える施策展開が図られた。
- 「きた北海道観光戦略会議」を2回開催、札幌圏での食と観光のPRイベントを2回実施、首都圏観光PRイベントを3回実施、旭川市「道北の観光と地場産品フェスティバル」を4回実施するなど、これらのPRイベントの効果で、道北地域が一体となった効果的な情報発信が図られたとともに、道北地域の持つ魅力について認知度が向上した。

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①道北地域が一体となった広域周遊型観光の推進、広域観光ルートの開発及び効果的な情報発信。
- ②体験型観光メニューの充実や長期滞在型観光地づくりの取組支援を行い、滞在型観光地づくりの推進。
- ③「食」の魅力を生かした、生産者、観光事業者、ホテル・飲食店等の連携による観光振興を推進
- ④「北のめぐみ食べマルシェ」の実施や、地域における食・観光連携新商品づくり促進事業を実施。
- ⑤関係機関との連携による、受入体制の整備促進
- ⑥4カ国語で作成した地域の観光情報のウェブデータを引き続き運営し情報発信。

①②③④⑤⑥⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「道北観光の魅力発見・発信プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
観光入込客数 (延べ人数)(千人)	22,773	22,541	22,186	22,095	20,468	21,156	34,000
外国人宿泊者数 (延べ人数)(千人)	246	250	216	265	183	251	400

■安心して暮らせるまちプロジェクト

【推進エリア：道北連携地域】

【主な取組実績】

- 道北圏地域医療再生計画の策定(H23～)
- 旭川赤十字病院を拠点として、ドクターヘリの運航が開始(H21.10月)
- 圏域での限られた医療・介護資源を有機的に結びつける地域連携クリティカルパス様式の検討から運営・拡大(H20～)
- 健康の駅の多岐にわたる各種事業の充実(食療カフェ、各種運動プログラム、各種講習会の実施、ICT利用眼科遠隔診断、アンチエイジングに資するモデル事業など)(H22～)
- 健康産業研究コーディネーター委託事業による留萌地域における健康産業の創出・育成を支援(H22～H23)

【主な成果】

- 道北圏地域医療再生計画に基づき救命救急センターの機能強化など施設・設備整備開始(H23～H25)
- 道北ドクターヘリ運航実績(H21：出動80件 要請105件、H22：出動309件 要請409件、H23：出動421件、要請608件、H24：出動454件、要請685件)
- 地域連携クリティカルパス利用脳卒中患者件数518名(H24)
- 健康の駅の多岐にわたる各種事業の充実

【今後の取組方向(主なもの)】(H25～)

- ①北海道医療計画及び第2次医療圏域ごとに策定した地域推進方針により、地域完結型の医療提供体制の構築に向けた取組を推進
- ②「自治体病院等広域化・連携構想アクションプラン」の策定
- ③地域連携クリティカルパスの普及を拡大するため、パスを利用した場合の診療報酬、介護報酬の点数化の促進
- ④健康の駅の多岐に渡る各種事業への支援(コホート研究の推進に向けた支援、子どもから高齢者までの交流サロン・健康情報探索コーナー開設など)

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「安心して暮らせるまちプロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
市町村国保の特定健診受診率(%)	—	27.7	28.6	27.6	27.8	29.1	65.0

■天塩川「環境・交流」リンケージプロジェクト

【推進エリア：上川、留萌、宗谷地域（天塩川周辺地域）】

【主な取組実績】

- 地産地消の取組を定着させるため、「地域材利用の活用事例セミナー」を開催（H20～H24）
- 地域材を活用した公共施設の整備、新たな製品開発に向けた実証実験に対する支援（H21～）
- 地域再生チャレンジ交付金を活用したカーボンオフセット制度の構築支援（H20～H22）
- NPO法人天塩川リバーネット21や周辺自治体におけるクリーンアップ作戦の実施（H14～）
- 天塩川のデータベース「テッシペディア」、鳥瞰図やリーフレットのほか、ロゴマーク・キャッチフレーズを作成するとともに、地域で「天塩川学セミナー」などを開催し天塩川に関する意識の醸成（H22～H23）

【主な成果】

- 森林バイオマスの利用促進を図るため木質ペレットストーブのPRや地産地消の取組を推進することにより、森林資源を適正に管理・活用しようとする取組が拡大
- 下川町では「環境未来都市」の選定、「森林総合産業特区」に指定
- 天塩川周辺地域の市町村や外部有識者が参加する「プロジェクト会議」や「タスクフォース会合」の開催により、地域で協働してプロジェクトを推進する体制が定着
- 移住体験施設の設置など交流人口拡大に関する取組が進展

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①天塩川の恵みを再認識するためのフォーラムの開催や、水質改善や河川清掃など環境保全活動の促進等
- ②天塩川周辺市町村が連携したプロモーション活動の実施や、イベントの創設や既存イベントの連動等
- ③地域プロモーション事業等の促進、移住体験事業等の実施
- ④ホームページやSNS等を活用した地域情報の発信、ロゴマーク等を活用した地域イメージの確立など、天塩川周辺地域のPR。

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「天塩川『環境・交流』リンケージプロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
移住体験者数 (累計)(人)	347	393	428	468	534	602	1,200

■ 上川の魅力ある食のブランド力向上プロジェクト

【推進エリア：上川地域】

【主な取組実績】

- 管内の有機農業生産者の情報交換を行う場として、「かみかわ有機農業ネットワーク」を設置（H21）
- 上川地区北海道米食率向上戦略会議の活動として、上川管内産米の品質向上に向け、基本技術の励行に係る取組を支援・消費者へのPRを実施（H24）
- ペポカボチャを活用した地域特産品の開発など、新商品開発に向けた試作品の製造、展示試食会の開催（H23～H24）
- 「かみかわ食べものがたり」を核とした各種イベント・セミナー、物産展の開催（H23～H24）
- アンテナショップの設置、テスト販売、顧客満足度の高い商品づくりへの意識向上に向けた取組（H20～H24）

【主な成果】

- H24までに延べ70集団が生産する30品目がYES!clean農産物に登録
- 北海道米食率向上戦略会議の全道での活動結果、H24の道産米食率が過去最高の90%
- 「北の恵み愛食応援団」32団体、「麦チェンサポーター店」45店舗登録
- GAP（農業生産工程管理手法）による農場管理改善の取組支援
 - ・団体認証に必要な内部監査員の資格取得者20人、認証取得農場21戸
- 「上川農業法人ネットワーク」の取組支援の結果、農業生産法人が37法人増加
- ペポカボチャの種子生産技術と産地形成に向けた研究テーマの確立とプロジェクトの推進
 - ・種子とわたの分離試作機の開発、栽培技術に関する試験研究の重点化、需要ニーズの把握

【今後の取組方向（主なもの）（H25～）

- ①「かみかわ有機農業ネットワーク」の活動の充実、消費者や食品事業者へのPRの継続実施
- ②YES!clean農産物が上川管内のブランドをリードしていけるよう、フォローアップを継続実施
- ③食用かぼちゃ種子の安定的生産体制の確立に向けた研究の実施
- ④地域間連携によるメニュー開発及び観光振興も視野に入れた地域合同プロモーション等の実施
- ⑤愛食運動、地産地消、麦チェンの気運が高まるよう、イベント等を通じたPR促進等の取組

①②③④⑤⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「上川地域が輝く食のブランド力向上プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
クリーン農業に取り組む生産集団数（Yes!clean）（団体）	63	67	69	69	70	70	69
アンテナショップ等におけるテスト販売商品数（件）	125	44	83	59	116	74	200

■大雪山「カムイミントラ～神々の遊ぶ庭」プロジェクト【推進エリア：上川地域】

【主な取組実績】							
<p>○大雪山をシンボルとした地域イメージの確立 スタンプラリーの実施（5回開催）（H20～H24）、通信の発行（21回掲載）（H20～H24）、ホールコンサートの実施（31回開催）（H20～H24）、フェアの展開（9回開催）（H20～H24）</p> <p>○大雪山の恵みを生かした地域産業の振興 スーパーマーケットトレードショーへの出店（1回）（H20）、フードデックスジャパンへの出店（1回）（H20）、ふるさと北海道グルメキッチンへの食材提供（3回）（H21～H23）</p>							
【主な成果】							
<p>○大雪山をシンボルとした地域イメージの確立、地域産業の振興 ロゴマークを活用した事業展開により、カムイミントラエリアの優れた食材や観光資源などの認知度を高める取組が進展 （大雪カムイミントラ・スタンプラリー応募者数 H20：5,652、H23：5,907） （ロゴマーク認知度 H20:35%、H23:54%）</p>							
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）							
<p>○大雪山をシンボルとした地域イメージの確立 ①大雪カムイミントラ・スタンプラリーの実施 ②大雪カムイミントラ・フェアの展開 ③ロゴマークの普及推進事業の実施など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①②③ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「大雪山魅力再生プロジェクト」で推進 </div>							
【地域で考える目標の状況】							
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
ロゴマーク（大雪カムイミントラ）使用届出件数(件)	60	73	79	85	88	90	200

■ るもい発「食・物語」

【推進エリア：留萌地域】

【主な取組実績】

- 新たなブランド米及び地域独自小麦の生産、推進（H22～）
- 健康産業の創出として、浜の葉「ハマボウフウ」の資源復活作戦と「浜辺の有効活用」によるコミュニティビジネス創出支援事業の展開や、初乳の利活用に係る特区を厚生労働省に申請など（H22～）
- 地域ブランド創出に向けた競争力の強化
 - ・水産物オーナー制（タコ、ヒラメ、エビ）の運営に対する支援や、民間団体が実施するお魚フェア、料理教室に対する運営支援を実施（H20～H24）など
- 管内の農水産物を使用した機能性食品の開発の可能性等についての検討会の開催（H22～）

【主な成果】

- 高品質な留萌管内産米の知名度向上、留萌独自小麦「ルルロツソ」の生産・加工・販売
- 地域におけるエコファーマー等の取組拡大〔登録件数 183件（平成24年度末）〕
- 管内統一オリジナルメニューを通し、給食現場・生産者・加工業者の連携体制の基盤確立
- 「るもい食PEDIA」の公開など食の情報発信に向けた取組を促進。
- タコ、ヒラメ、エビのオーナー制は、大きな反響を呼び、道内外から多数の応募があった。

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①各種イベント参加など留萌管内産米PR活動の充実
- ②健康産業創出支援プランに基づく各種プロジェクト推進（ハマボウフウ、エディブルフラワー、ケアフード、ウェルネスツーリズム等）
- ③地産地消・食育の推進に向けて、各市町村及び振興局で策定した「地産地消・食育推進計画」を踏まえた、地域における地産地消や食育の取組の推進
- ④るもいの「食」＋「観光」の魅力を道央圏にPRし、管内への誘客数増、知名度向上ならびに地域経済の活性化の促進を図る。（ヨ～ス来い！るもい～ オロロンライン「食と観光」魅力再発見事業）
- ⑤包括連携協定締結企業の協働による留萌食材のPR

①②③④⑤⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「るもい発『食・健康物語』プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
クリーン農業に取り組む生産集団数（Yes!clean（団体））	—	18	22	22	22	22	26
うるち米の低たんぱく米生産比率（％）	70	98	7	5	68	61	80
地域団体商標登録数（件）	1	0	0	0	0	0	5

■オロロン菜の花ネットワーク推進プロジェクト

【推進エリア：留萌地域】

【主な取組実績】

- 官民で構成する「オロロン菜の花協議会」を設立（平成20年7月）し、協議会を中心に事業を推進（H20～）
- 菜の花の有効活用の推進に向けて、菜の花試験栽培、連作に関する調査研究、絞り滓利用法調査研究の実施。（H20～）
- 廃油回収からのBDF製造の促進に向けて、BDF精製・使用の実証実験、公用車へのBDF導入などを実施（振興局・留萌市）（H21～H24）

【主な成果】

- 官民から構成される「オロロン菜の花協議会」が中心となり、菜の花イベントを継続的に実施
- 廃食油によるバイオディーゼル燃料（BDF）の精製・利用の促進
[H20：300ℓ/月 → H24：1,100ℓ/月]

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①農商工連携・6次産業化を基本とした各関係機関との連携体制の検討
- ②菜の花イベントの定着化として、資源循環サイクルの普及啓発や、景観形成による新たな観光資源の創造
- ③ひまわり等との輪作体系構築に向け、公共用地等を活用した試験栽培等を実施
- ④商品開発や試験販売などによる菜花等の食用価値の検証

H25からの地域重点プロジェクト：「新エネルギー導入促進プロジェクト」を進める、「自然に根ざしたエネルギーの地産地消の取組」の中で、引き続き推進

【地域で考える目標の状況】

項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
バイオディーゼル燃料（BDF）原料となる「菜の花」の栽培面積（ha）	—	27.5	23.0	25.0	33.0	27.7	100.0

■ るもい環境保全プロジェクト

【推進エリア：留萌地域】

【主な取組実績】

- ボランティアによる海岸線の景観維持の取組（「オロロンラインをきれいにし隊」登録団体等）（H22～H24）
- 増毛山道の維持整備、利活用の検討（山道測量、笹刈の実施、案内板設置、あり方検討会の開催等）（H23～H24）
- 「るもいの森」整備促進などの森づくり（森づくりスキルアップセミナーほか）（H20～H24）
- 自然のしくみや野生動植物等の基礎的知識の普及（自然観察会の開催ほか）（H20～H24）
- 省エネ・新エネ導入推進として、「留萌地域省エネ・新エネ導入推進会議」の設置（H23）
- 間伐材や林地残材等の木質バイオマスの利用促進（ペレットストーブ展示会の開催）（H20～H24）

【主な成果】

- 「オロロンラインをきれいにし隊」登録数 27団体（H24年度末）
- 増毛山道体験トレッキング開催回数 7回（H24年度）
- 森づくり活動の開催回数、参加者数の増加（H20 38回862人、H24 47回 926人）
- 自然観察会参加者数 685人（H20～24）
- 住民のペレットストーブに対する認知の広がり

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①ボランティア活動の促進…市町村等と連携してボランティア活動を働き掛け等
- ②行政と各団体との連携強化…緑化団体と行政が連携したネットワーク組織の体制強化
- ③「オロロンラインをきれいにし隊」登録の普及・拡大…関係機関・団体等への周知依頼、イベントでの周知等
- ④増毛山道のPR…増毛山道体験トレッキング、道の広報媒体の活用 等
- ⑤廃食用油回収量の拡大…BDFの精製、利活用の取組を改めて地域住民へ周知

①②③④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「留萌の環境を守り育てるプロジェクト」で推進

⑤⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「新エネルギー導入促進プロジェクト」を進める、「自然に根ざしたエネルギーの地産地消の取組」の中で、引き続き推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
廃食用油によるバイオディーゼル燃料（BDF）の精製量（リットル/月）	—	300	1,100	1,100	1,100	1,000	1,000 (当初)
自然公園利用者数（年間）（千人）	153 (幌延分60)	125	129	71	67	68	93

■留萌港再生プロジェクト

【推進エリア：留萌地域】

【主な取組実績】

- 東アジアとの技術交流や経済交流を推進するため、ベトナム訪問[留萌市商工会議所]（H20）、ベトナムから研修生の受け入れ（H21～22）を実施
- 留萌港活用推進検討会の開催（H20～22、計7回）（小麦サイロ、水産加工品原料貯蔵 用冷蔵庫等の事業採算性について検討）
- うまいよ！るもい市の開催（H20～24、計28回）
- るもい呑涛まつりの開催（H23～H24）
- 客船クルーズ船来港、歓迎イベント等開催（H24、2隻）

【主な成果】

- ベトナムを訪問し研修生を受け入れることにより、信頼関係が醸成され、今後の経済交流に向けた基礎が構築
- 調査事業により、小麦サイロ等を整備し留萌港からの小麦移出拡大を図るために必要な条件が整理
- イベント（うまいよ！るもい市等）に併せ、開催されたみなと見学会などにより、留萌港への理解が促進

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①極東や東アジアとの技術交流や経済交流などの推進に向けて、サハリン州における物産展を開催（H25～）
- ②海外とのビジネス交流に向けた情報収集とアプローチ
- ③留萌港からの移出増を目指した物流情報の収集
- ④うまいよ！るもい市ほか、積極的に港を活用したイベントを開催

①②③④⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「留萌港再生プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
留萌港取扱貨物量 (年間)(万ト)	136.3	132.4	123.1	113.4	115.5	131.8	143.0
留萌港に魅力や親しみを 感じる市民の割合	0.221	0.202	0.209	0.163	0.168	0.252	0.30

■日本海元気づくりプロジェクト

【推進エリア：留萌地域】

【主な取組実績】

- 「ハマボウフウ」と「オカヒジキ」の資源復活作戦と「浜辺の有効活用」によるコミュニティビジネス創出支援事業を展開（H22～）
- 留萌市やNPOコホートピアと連携し、健康の駅を利用した「食と健康」「暮らしと食」等をテーマとしたイベント・講演会を通して、健康の駅を拠点とした新たなコミュニティネットワークづくりを推進（H22～）
- 留萌管内産の食素材を活用し、食・生産地情報や機能性・効能などを明らかにしたメニューを企画し提供する「食療カフェ」をるもい健康の駅に開設（H22～H23）

【主な成果】

- 留萌信用金庫と連携した「留萌・元気づくりセミナー」等の開催及び「元気づくり助成金」によるものづくり支援
- 研究会を軸にした浜の葉「ハマボウフウ」の資源復活作戦と「浜辺の有効活用」によるコミュニティビジネス創出支援事業の展開により、ハマボウフウの栽培実証、実証ほ場活用による生産基盤確立につながったほか、資源回復を通じ、地域一丸となった海浜環境保全活動が行われた。
- 心の健康を育む書店誘致プロジェクトの展開
 - ・市民団体への支援
 - ・三省堂書店と包括連携協定

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ①「ハマボウフウ」の資源復活作戦と「浜辺の有効活用」によるコミュニティビジネス創出支援事業を継続実施
- ②北海道コカ・コーラボトリング（株）と連携し、地域一丸となった海浜環境保全活動を推進
- ③農商工連携ファンドを活用した、新商品開発支援
- ④「食クラスター連携協議体」を活用した、販路拡大等に係る支援

- | |
|---|
| ①② ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「食・健康物語プロジェクト」で推進 |
| ③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「日本海元気づくりプロジェクト」で推進 |

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
建設業新分野進出サポートチームによるサポート企業数（社）	－	20	19	9	4	4	10
移住者数（累計）（人）	5	7	11	17	21	21	25

■「宗谷の食」ブランド力向上プロジェクト

【推進エリア：宗谷地域】

【主な取組実績】

- 協業化による効率的な飼料生産システム構築や営農支援組織の設立を支援（H20～H24）
- 地域食クラスター推進事業を通じたマーケットイン型の商品開発及び効果的な販路拡大を推進（H23）
- 食クラスター多角的連携事業を通じた商品の磨き上げやコラボレーションメニューの開発、道内外への販路拡大を推進（H24）
- 札幌圏において、道北3振興局が連携した特産品のPRイベント「きた☆北海道フェア（H22）」及び「きたキッチンフェスティバル～きた北海道＜上川・留萌・宗谷＞の新発見！（H23）」を実施
- 漁業体験研修「漁師道！」の実施などを通じ、離島における新規漁業就業者確保対策を実施（H20～H24）

【主な成果】

- 管内のTMRセンターが8組織となり、効率的な飼料生産システムの導入が促進
- 魚礁の整備等により、安全な水産物の安定的な供給体制の整備促進が図られた
- 管内特産品の認知度向上が図られ、多くの商品について販路が拡大
- 漁業体験研修「漁師道！」などを通じ、H20～24で島外出身者12名が離島地域で漁師に就業

【今後の取組方向（主なもの）（H25～）

- ①生産性の向上とコスト削減等により、持続的に発展しうる経営体の育成を図り、豊かな草地資源を最大限に活用する放牧型酪農を推進
- ②コンブの漁獲量低迷に対応するため、試験研究機関等と連携してデータの蓄積を図っていく。
- ③地域における食クラスター活動を推進するため、販売体制の整備、マーケットイン型の商品開発、効果的なPRの実施等に対する支援を実施
- ④漁業就業者確保対策として、課題解決へ向けた関係者間の連携強化を推進

①②③④ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「『宗谷の食』ブランド力向上プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
営農支援組織数(組織)	18	20	20	24	26	28	25
道産食品登録制度に係る登録数(件)	4	5	5	6	8	6	7
離島漁業新規就業者数(名/年)	—	4	6	2	4	5	10

■人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト

【推進エリア：宗谷地域】

【主な取組実績】									
<p>○清掃キャラバン等を実践する「宗谷クリーンアップ運動」を実施（H21～H24）</p> <p>○エゾシカによる被害実態の把握や捕獲方法の検討等を行う「エゾシカ被害対策事業」を実施（H22～H23）及び「エゾシカ効率的捕獲等検討事業」（H24）を実施</p> <p>○新エネルギー導入に関する情報収集や各種支援施策など情報発信の実施（H20～H24）</p> <p>○道北日本海側11市町村が、風力を中心とした自然エネルギーの活用による地域活性化方策を検討・実現していくため、「オロロンライン地域の自然エネルギーを活用した地域活性化に関する研究会」を設立（H23）</p>									
【主な成果】									
<p>○環境美化等への賛同を募る「宗谷クリーンアップサポーター」に42の個人及び団体が登録</p> <p>○「エゾシカ被害対策事業等」の実施により、エゾシカの被害に係る牧草等の収量が10～40%の減が確認されたほか、囲いわな・くくりわなによる捕獲で成果を得た。</p> <p>○盗掘防止キャンペーン等の実施により、近年高山植物の盗掘は発生していない</p> <p>○市町村と企業やNPO法人等地域の多様な主体が連携・協働して行う、地域の特色を活かした新エネルギー活用の取組が促進</p>									
【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）									
<p>①「宗谷クリーンアップ運動」の実施等により、環境保全意識の醸成に向けた普及啓発活動を推進</p> <p>②エゾシカによる被害の実態や生息状況を把握するとともに、効率的な残滓処理やエゾシカ肉の有効利用を推進。</p> <p>③新エネルギー導入促進に向け、新たな支援制度の創設等について検討を行うほか、国・道の各種支援制度等について幅広く情報発信</p>									
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">①②</td> <td style="width: 90%;">⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト」で推進</td> </tr> </table>								①②	⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト」で推進
①②	⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト」で推進								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">③</td> <td style="width: 90%;">⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「新エネルギー導入促進プロジェクト」で推進</td> </tr> </table>								③	⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「新エネルギー導入促進プロジェクト」で推進
③	⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「新エネルギー導入促進プロジェクト」で推進								
【地域で考える目標の状況】									
項 目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)		
自然公園利用者数 (年間)(人)	138	128	118	119	115	103	144		

■ **最北のゲートウェイ・サハリン交流推進プロジェクト**【推進エリア：宗谷地域】

【主な取組実績】

- 稚内市が友好都市3市からの職員の受入（H20～H24）を行ったほか、稚内商工会議所が、友好都市3市から企業研修生を受け入れ、市内の企業で研修を実施（H20～H24）
- 経済交流の促進に向けて、「宗谷地域等サハリン交流連絡会議」（H22、H23）、「稚内・コルサコフ定期航路利用促進合同会議」（H20～H24）、「日ロフェリー定期航路利用促進協議会議」（H20～H24）を開催
- サハリン州の旅行エージェント等に対し、宗谷観光プレゼンテーション及び招へい事業を実施（H21）
- 「サハリントウンガイドマップ」を配付（H20～H24）、「日ロフェリー」を活用したモニターツアー実施（H24）、新サハリン観光ガイドブックの作成（H24）

【主な成果】

- 研修生の受入や訪問事業の実施などを通じた友好交流の促進
- 各種会議等を通じたサハリン州との経済交流の課題についての認識の共有
- 稚内・コルサコフ定期航路を利用する利用者数について、東日本大震災の影響を受ける中でもロシア人利用者は2,000人台を維持し、減少を続けていた日本人利用者はH23に下げ止まり

【今後の取組方向（主なもの）】（H25～）

- ① 研修生の受入や訪問事業の実施などを継続して実施し、さらなる友好交流の促進
- ② 稚内・コルサコフ定期航路の取扱貨物量増加に向けた取組を強化していくとともに、経済交流を促進する上での課題の解決に向けた取組を推進
- ③ サハリン州観光ルートモニターツアーの実施や道内外におけるサハリン観光PR活動の実施など関係機関等が連携した取組を通じて、さらなる観光交流を促進

①②③ ⇒ H25からの地域重点プロジェクト：「サハリン交流促進プロジェクト」で推進

【地域で考える目標の状況】

項目	H19 (基準年)	H20	H21	H22	H23	H24 (実績)	H24 (目標)
定期フェリー航路年間利用者数（人）	4,695	5,331	4,236	3,903	3,629	4,219	4,700